

ニューノーマル時代の展示会での価値訴求について



企業レポート

岡本 裕介*

Value appeal at exhibitions in the New Normal era

Key Words : messe, exhibition, online, web, New Normal, DX, V-MESSE, platform

はじめに

凸版印刷は経営課題の一つとして新事業・新市場の創出を掲げ、デジタルマーケティングや製造DX支援ソリューション「NAVINECT」を始め、多種多様な業界に向けたDX推進サービスを開発・提供することで、デジタル化する社会のニーズに対応している。

また、DX事業を推進する基盤として、自社における業務プロセスの変革や、デジタル化に向けた環境整備に継続的に取り組むとともに、統合レポートやウェブサイトにおいて、積極的な情報開示も行っている。

そういった中、新型コロナウイルスの感染拡大は、多くの業務に影響を与えた。特に、移動や接触が制限されることで、最も大きな影響を受けた業務の一つとして展示会が挙げられる。大きな会場に多くの人が集まって、密にコミュニケーションを取ることので成り立っていた展示会は、オンラインでの実施、デジタルによる変革が不可避な状況となった。そのため、凸版印刷では、DX事業の一環として、これまで展示会の運営、設営、支援を行っていたノウハウを活かしつつ、オンライン展示会の実施が容易に行えるシステムとして“V-MESSE”というサービス提供を開始した。

本稿では、オンライン展示会の昨今の状況、オン

ライン展示会を実施する上での重要なポイントとともに、V-MESSEについて紹介する。

昨今のオンライン展示会の状況

日刊工業新聞 (<https://biz.nikkan.co.jp/brand/eventexpo/2021/>)によると2021年度のオンライン展示会の開催状況は、2021年展示会件数528件中、現地展示323件、オンライン17件、同時開催162件、中止13件という状況であった。オンライン展示会の実施は増えているものの、やはり現地開催が多いとともに、同時開催を行うケースが増えている。

なお、展示会にはプライベート型と集合型があり、
プライベート展：自社の既存顧客を招いて新商品をPRするケース
集合展示会：新規顧客の獲得目的のケース
となっている。

V-MESSEの機能

オンライン展示会を実施する上で必要となる主要な機能は以下の通り。

| 機能分類 | 機能名 |
|-----------|-----------|
| ブース構築 | WEB CMS |
| コミュニケーション | オンラインセミナー |
| | オンライン商談 |
| | オンラインチャット |
| 来場者管理 | 来場者エントリー |
| | ログ管理 |
| | アンケート |
| | サンキューメール等 |

機能一つ一つを取り上げると、特別ハードルが高い機能はなく、全て既存技術や既存サービスを使うことで実施は可能である。オンラインセミナーやオンライン商談、チャットといったコミュニケーション



* Yusuke OKAMOTO

1976年10月生まれ
大阪大学 基礎工学部 (2000年)
現在、凸版印刷株式会社
西日本事業本部 関西TIC本部
デジタルプラットフォーム部 課長
TEL : 06-6454-6185
FAX : 06-6226-2927
E-mail : yusuke.okamoto@toppan.co.jp

機能は、昨今オンライン会議が主流になり、そこで使用されている Zoom 等をそのまま使うこともできる。そのため、オンラインセミナーだけ行う場合や、個別商談会等を単発で行う場合は、比較的容易に実施が可能である。ただ、オンライン展示会となると、上記のすべての機能をシームレスにワンストップで実現することが望ましいが、すべてを網羅したサービスはほとんどないため、様々なシステムを組み合わせる SI (システムインテグレーション) 業務が必要になり、費用面、運用面、立ち上げ前の期間に関するハードルが高かった。そのため、V-MESSE はこれらの機能を全て網羅することで、展示会を行うこととなった場合のハードルを下げるシステムとして提供している。

オンライン展示会を行う上での障壁

オンライン展示会自体は、昨今の情勢からも多くの企業が興味を持っている。また、V-MESSE に限らず、オンライン展示会を行うためのシステム、サービスも徐々に増えていっている。しかしながら、実際にオンライン展示会を実施するという判断を下すには幾らか障壁があり、実施に踏み切れていない企業が多い。その理由としては、オンライン展示会自体初めての試みとなるため、リアルでの実施と同様の投資対効果が得られる保証が無いことから、見送りとなるケースが多い。また、実際にオンライン展示会を行ったところからも成功の声より、課題が挙げられることが多いという実状である。

オンライン展示会に於ける課題として挙げられる点として、リアルに比べてリモートになることによるお客さま、来場者とのコミュニケーションの機会が減少するという点が最も大きい点として挙げられる。プライベート展に於いては営業による来場者のアテンドであったり、集合展示会に於いては個別相談会であったり、そういった機会が設けにくい。また、機能としてチャット機能等を設けたとしても、顔が見えない相手に対する相談が心理面でのハードルが高いため、リアルに比べてコミュニケーションの機会が減ってしまうという課題や懸念に繋がるケースが多い。

V-MESSE によるオンライン展示会の課題解決提案

V-MESSE ではオンライン展示会で必要な機能

を網羅しているだけでなく、前述のコミュニケーションの機会をオンラインでもリアル同様に設けるための取り組みを行っている。

① オンラインでの営業アテンド

リアルでのプライベート展示会では、営業がお客さまを招待して、入り口で待ち合わせて、中を順番に案内し、また途中で上長による挨拶を挟んだり、技術部門による説明を行っている。これをオンラインで再現する機能を指す。具体的には、お客さまに専用の入り口となる URL を送付して、そこに入って頂き、WEB 会議の画面となるが、そこで会話を行うだけでなく、展示会内を案内して回れる機能となっている。

② ブース前でのプレゼンテーション

リアルの集合展示会では、各ブース前で実演やプレゼン等を行っている。そこで興味を持ってもらうことで、質疑応答の場に繋がって、コミュニケーションの機会を得ることが多い。これをオンラインで再現する様なブース前でプレゼンが行える機能、および、そこからチャットや WEB 会議、名刺交換に誘導することで、コミュニケーションを増やす機会に繋げる機能である。

これらの機能を提供することで、V-MESSE ではリアルの展示会と同様の効果を得られるオンライン展示会の実現を可能としている。

また、オンライン展示会を行う場合でも、リアルと同様に、システムで提供する機能以外の要素、例えば集客、展示内容の企画、コンテンツ制作、展示会運営といった業務は発生する。これらをスムーズに、漏れなく行うためにはリアル展示会の実施のノウハウも必要となってくる。凸版印刷では、リアルの実施を行っている数多くの実績もあるため、V-MESSE といったシステム提供だけでなく、3D 空間の演出や CMS (コンテンツマネジメントシステム) などのトータルの支援も可能といった点も、凸版印刷としてオンライン展示会の課題解決として提案できるポイントとなる。

おわりに

本稿では、オンライン展示会の状況と凸版印刷が提供しているオンライン展示会施策のV-MESSEについて記載した。V-MESSEという汎用的なプラットフォームを活用すると、大小関わらず様々なオンライン展示会の実施が可能となる。そのため、

大規模な展示会だけでなく、集合展示会による参加を促したり、規模を小さくして限定的な展示会をトリアルとして行うこともできるため、多様なケースで利用が可能になり、コロナ禍に於ける新規開拓の企画提供に貢献していく所存である。

